

雨でも腐らないハイキューブ

「関東森林管理局の

林業技術等交流発表集」から

四国森林管理局では、野生鳥獣による森林被害対策として、被害の防除や、被害をもたらず野生鳥獣を適正な頭数に管理する個体数管理等を実施しています。

先日、関東森林管理局から平成30年度森林・林業技術等交流発表集が届きました。

発表集の中に「ニホンシカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践第3報（低密度下におけるニホンシカの誘引及び捕獲試験）」が掲載されていました。

特に、シカの効率的な捕獲には、誘引も大切。そのため、シカが好む餌を置いて誘引。誘因にはハイキューブが有効だが風雨の下では水分を吸収し腐敗が発生することから、塩ビパイプを加工した給餌器（以下・塩ビ管給餌器）等（写真）を開発したとのこと。



四国局でも、ハイキューブを含め誘引対策を実施中。関東局等の塩ビ管給餌器等の試験・研究に学び、今後のシカ害対策等に活かしていきたいものです。

関西地区 保護部会 に参加

令和元年度 関西地区林業試験研究機関連絡協議会の保護部会が7月23～24日、鳥取県で開催され四国局から2名（森林技術・支援センター、技術普及課）が参加。

部会では、各研究機関等から病虫獣害対策や林業薬剤開発等について報告があり、参加者と意見交換を行いました。

全体会議では、四国局から「四国局の重点施策」として、ドローン・ICTの新技术の積極導入や早生樹コウヨウザン三世代プロジェクト等について情報を提供。

2日間の会議を通して、各県の研究者が持ち寄った研究課題に対し、アドバイスや質問等があり活発な議論を重ねました。

シカ対策では、シカを減らすことではなく、シカから樹木を守ることへの研究課題が多く、シカの効率的な捕獲・減少に向けた情報を得るには至らなかったものの、多くの課題発表、意見交換に学びました。

編集後記

梅雨明けとともに、音量を上げたクマゼミの合唱。熱中症の季節。適度の水分補給で、体熱を下げ、自分のほどよい音量で。



「アリドオシ」って



アリドオシは、アカネ科の常緑低木で関東以西の暖温帯林に分布（写真）。

長さ1cmほどの筒状の白い花を5月ごろに咲かす。その実は冬に赤く熟し、翌春の新たな花が咲く時期にも枝先に。アリドオシの最大の特徴は、枝と葉の付け根から伸びる「とげ」に。

名前の由来は「蟻通し」。アリをも刺し通すほどの鋭いとげ。また、果実が冬を迎えても枝に残るところから、「有り通し」の意味も。

この言葉の響きからセンリョウ・マンリョウトともに混植され、「千両・万両・有り通し」の語呂合わせを持った正月用の縁起物の植物として古くから使われている。

シカの生息密度の異なる場所でアリドオシの形態を比較。シカの生息密度の高い場所では丈夫なとげを。シカに食べられにくいようにとげの形態を変化。アリドオシのとげは、シカなどの動物から身を守るために進化したといえる。

森の花を楽しむ101のヒント
（日本森林技術協会）